

手塚正君（5組）が突然逝去

上原 昇(2組)

9月14日、手塚正君（5組、青木村出身、上田市中央在住）が突然亡くなりました。

葬儀（通夜）は9月16日、内々で執り行われました。

手塚君は高校時代には吹奏楽部に所属して、卒業後も同班同窓会（松奏会）の中心メンバーとして活躍していました。



同窓会では長年65期の代議員として、同期会では上田六五会のメンバーとして幅広い活動をしていました。ゴルフも大好きで、同期コンペには毎回参加して、にこやかな笑顔で周りを和ませる人でした。

以下は、吹奏楽部や六五会で一緒だった布施修一郎君（6組）の追悼の言葉です。

「上田高校吹奏楽団OB・OG会（松奏会）の幹事定例会と一緒に参加している手塚君が珍しく欠席したので、どうしたのかと案じていた翌日にびっくり仰天の訃報が届きました。一人で出かけた霊泉寺温泉に入浴中、脳血管障害か心臓発作を起こしたと思われます。手塚君は高崎経済大学を卒業後、家業の昭和設備工業を継承し、水回りの仕事に従事してきました。同期の誼で、冬場の水道の凍結、水洗便所の詰まりの際には、直ぐに駆けつけ対処してくれ、地元同期にとっては“水回りの緊急ドクター”的存在でした。

高校時代は、一緒に吹奏楽部で活動しました。今ならフレンチホルンというパートに当たるアルトホルンを担当し、中音域をカバーする役についていましたが、当時の楽器はぼろで、バルブが壊れて輪ゴムで補修し苦労して演奏していた姿を思い出します。

「松奏会」発足後、私の誘いに快く乗ってくれ幹事の一員になり、演奏会の場所取りほかの運営に汗を流してくれました。また、65期地元有志からなる六五会の会員でもあり、例会はもとより会員による地域の歴史を見ながら歩く会などにも積極的に参加してくれました。

誰もが認める彼の人柄の良さ、健康への気遣いからして、こんなに早く鬼籍に入られるとは予想だにしていませんでしたので、残念で仕方ありません。

ご冥福をお祈りいたします。」